

つなぐこと、つながることを求めて 里親支援専門相談員の役割

赤ちゃんの家さくらんぼ 前里親支援専門相談員（現施設長） 岩田 裕美

全国的な流れとして、ケアの小規模化がいわれており、私たちの施設も2013年5月に小規模グループケアハウス「ももの家」を建て、6月から取り組み始めています。

そして、25年度から里親支援専門相談員がわが施設に配置され児童相談センターの活動の枠組みとプログラムに沿って連携、協働しています。

愛知県では、前年度モデル事業として最初に始められた先輩施設（竜陽園）の里親支援専門相談員さんがみえます。そのおかげで私は活動の様子や意見などを伺うこともできてとても心強く始めることができました。

社会的養護の多くの子どもたちが虐待的育ちを経験していると言われ

- ①愛着の関係が結びにくい子ども
- ②発達上よりきめ細やかな対応が求められる子ども
- ③医療的処置の必要な子ども

など、より専門的な関わりと支援が求められる子どもの数は年々増加の傾向にあると感じています。

子どもの命を守り育てること、子どもたちに良質な生活環境を保障し、関わる大人の永続性・普遍性を大切にするための方策を考えたいと思います。

里親支援専門相談員の業務について
(里親支援専門相談員に係る業務取扱要領より抜粋)

1. 里親家庭への訪問および電話相談

ア、定期訪問

- ① 委託後2カ月まで ⇒ 2週間に1回
- ② ①から2年間 ⇒ 1カ月間または2カ月に1回
- ③ ②以降 ⇒ 1年間に2回

イ、特別訪問

里親の養育が不安定になった場合（適宜）

2. 里親委託推進

- ア、未委託里親への状況及び意向等の把握をする
- イ、施設等において、センターが里親と児童のマッチングの補助を行う
- ウ、マッチングを開始した里親と児童の面会、外出、外泊の前後に面接や助言を行う

3. 里親サロンの運営

所管のセンターが実施する里親サロンに参加する

4. 里親への研修

体験発表会等による里親養育研修への参加及びその運営補助に努める

5. 里親会の活動への参加勧奨及び活動支援

- ア、里親サロン及び里親家庭への訪問等の際において、里親に対し里親会の活動勧奨に努める
- イ、愛知県里親連合会及び地区里親会の行事への参加に努める

6. 里親制度の啓発（里親の新規開拓）

地域の福祉、市民祭り等において、里親制度の普及活動に努める

7. その他

センターの指示によるその里親支援

上記に掲げられた業務を実施するとともに、その内容を記録し所轄のセンターに毎月報告しています。

具体的に申し上げますと、委託された里親さん宅に児童相談センターのケースワーカーとともに訪問（委託後2カ月までは月2回、その後は半年くらいまでは月1回）し、子どもの様子観察、里親さんの話を聞かせていただきます。また、新生児からの乳幼児期の発達や関わり方、離乳食、こんな時はどうしたらいいの？等の相談に乳児院職員としての専門性を生かしたアドバイスをしています。そのほか、サロンに出向き、里親さんと交流し、それぞれの抱えている悩みや質問に



答えたり、問題解決に向けて児童相談センターに伝えています。これら以外にも、里親研修、認定前研修、体験発表会、委託式、各種会議の参加、未委託里親の意向確認、不調ケースの振り返りと見直し、里親啓発活動、自施設での里親実習指導、マッチングなどを行っています。

施設の職員として籍を置きつつも支援業務活動のため、月の半分は施設外へ出ています。今後、さらなる支援を拡げていくとなるとその日数は確実に増えていくであろうと思われます。里親支援相談員としての業務遂行と施設内での役割が問われるところであり課題となります。

子どもの幸せを願い叶えるために関係機関が連携し、進めていきたいと考えます。

人も機関もステージが変わると関係が途切れ、児童相談センターのケースワーカーも異動により変わって

しまうのが現状です。同じ人間が長く関わり、育ちを見届けること。そのような関係を作ることが里親支援専門相談員ではないかと思います。愛知には愛知方式と言われる素晴らしい新生児委託度があります。

里親さんをつなぎ、児童相談センター、行政とつながる。その両者をつないで支援の輪を拡げていきたいと思います。この子の行く先を考えるときに、この里親さん、あの里親さんと顔の見える関係までつながってほしい！ その橋渡し役を担いたいと思います。

児童相談センターには里親担当のケースワーカーがみえますが、地域担当を持ちながら里親支援をされており、多忙な日々をおくられています。里親の新規開拓や、充実した里親支援を確立していくためには、児童相談センターでは専任の里親担当者にするとともに、各施設に里親支援専門相談員が配置されることが望まれると思います。

里親はホッとできる実家 里子として育て

私は中学3年生の頃、両親と上手くコミュニケーションが取れず不安定な生活を送っていた。それを察して母は兄相のカウンセリングを進め何度か通いました。(後々これが私にとって助けになる)無事に中学卒業、高校入学しましたが1年の時に姉妹との対応の違いに耐えられず兄相に助けを求めにきました。高校生ということもあってかり親さん宅に保護してもらいました。そこから学校にも通わせてもらい、しばらくそこで過ごしましたが里親さんとの生活リズムがずれてきてしまい兄相に相談しました。

高校2年の時に新たな里親さん宅に出会いました。初めのうちは互いに様子を伺い付かず離れず、同じ建物内にいながらメールでやりとりをすることもありました。高校へは通わせてもらい、共に生活していくなかでわがままも言えるようになり自分が出せるようになりました。今思えば、甘えさせてもらっていたのだなと感じています。また里親さん宅でたくさん子どもたちに出会い、いろんな経験をさせてもらいました。

乳児から同じ年代の子と一緒に生活していた時期もありました。さまざまな思いを抱えた子どもがいましたがほんとに家族のようでした。乳児の子が養子縁組で引き取られていく時には嬉しい事なのに、別れが悲しくてちゃんと送り出す事ができなかった事もあります。大きくなって元気な姿で再会した時は本当に嬉しかったことを覚えています。私は、子どもと遊ぶ事に関してはピカイチ得意でした。キャッチボールをしたり、公園に行ったり、たくさん遊びを通して里親宅で成長させてもらったと思っています。また、地域の方の温かい目があり、地域の行事に参加をしたり、協力や理解を頂き地域で育つ大切さも里親宅で知りました。私の当時の夢は保育士になることでした。

高校卒業後は就職し、1年お世話になり一人暮らしを始めました。家が近かった事もあり顔を出す事もあり、しばらくして居候のような形で再度一緒に住んでいました。

ある日、私の言った一言で今までの関係が崩れてしまい疎遠になってしまった事もありました。

数カ月たって一本の電話が里親さんから入りました。「保育に携わる仕事を紹介してもらえるかもしれない」と。距離を取っている私を考えてくれたのだ。里親さんの優しさ、温かさを感じました。私が今、思うことは「家庭は大事」だということです。

学校から帰ってくれば夕食のおいが台所から伝わってきたり、一緒に料理をしたり買い物に行ったりと、その子どもたちに「家庭」を教えてあげたい、体験させてあげたいと思っています。

里親宅は継続して同じ顔(家族)の人が支援に当たれるという大きなメリットがあります。私はそれこそが子どもたちにとって欲しいもの、感じたいものなのではないかなと感じています。

私は里親宅で将来の夢を見つけ、今、子どもに携わる仕事をしています。同じ支援者の大切さ、人とのつながり(信頼関係)、その子を大切に思う気持ちを知りました。私にとって里親宅はホッとできる実家のような存在になっています。

一人でも多くの里親さん、ファミリーホームさんが増える事を願っています。また、恥ずかしながら私の今の目標はファミリーホームをやれたらなと思っています。
(愛知県内の福祉施設で働く保育士)



竜陽園を訪ねて 里親支援専門相談員について学ぶ

編集部 宇宙 平尾 奈緒美 知多学園 八波寮 板谷 光一
豊橋ひかり乳児院 遠山 徳子

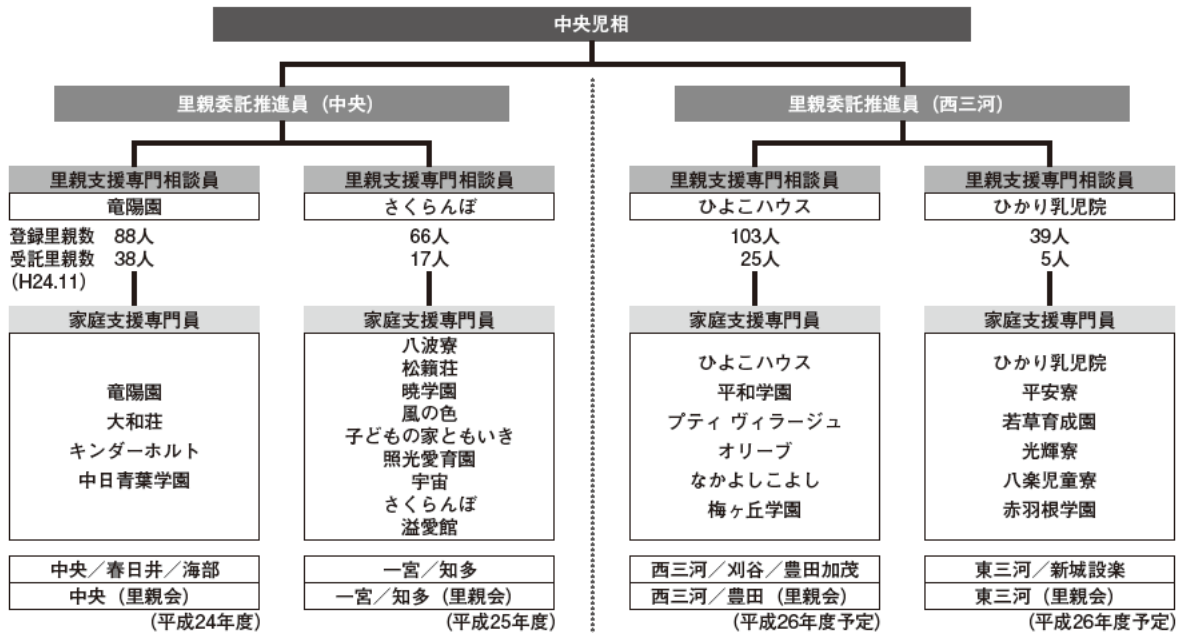


渡辺友子さん

赤ちゃんの家さくらんぼとともに里親支援専門相談員を配置している乳児院竜陽園を訪ね、伊藤貴之園長と同相談員の渡辺友子さんに話を伺った。

平成24年6月1日から活動している。現時点で愛知県内の里親支援専門相談員は、2人である。平成26年度からは、4人となる予定であるとのこと。目標としては、各児童相談センターに1人の配置が理想であるとのこと。（下表参照）

中央、海部、春日井地域を担当しておられるとのこと。主な活動内容としては、月に1回以上開催される里親会議に出席したり、里親サロンの開催（月に6回⇒1地域で2回）する。その他、里親研修会の運営に、また児童相談センターのCW（ケースワーカー）と同じようではあるが、里親に特化した仕事をしている。里親委託後の新生児を1週間に1回家庭訪問も行うなどの仕事がある。



【里親支援専門相談員について】

趣 旨 児童養護施設及び乳児院に地域の里親及びファミリーホームを支援する拠点としての機能をもたせ、児童相談所の里親担当職員、里親委託等推進員、里親会等と連携して、（a）所属施設の入所児童の里親委託の推進、（b）退所児童のアフターケアとしての里親支援、（c）所属施設からの退所児童以外を含めた地域支援としての里親支援を行い、里親委託の推進及び里親支援の充実を図ることを目的とする。

資格要件 里親支援専門相談員は、社会福祉士もしくは精神福祉保健士の資格を有する者、児童養護施設第13条第2項各号のいずれかに該当する者または児童養護施設等（里親を含む）において児童の養育に5年以上従事した者であって、里親制度への理解及びソーシャルワークの視点を有するものでなければならない。



教えて!! 里親支援専門相談員の仕事…?!



Q 里親支援専門相談員を配置している施設は？



A 竜陽園（乳児院）、赤ちゃんの家さくらんぼ（乳児院）です。



Q 何故、乳児院に里親支援専門相談員が配置されているの？

A 愛知県は新生児委託を推進しているため、乳児院の職員が里親支援専門相談員となっています。しかし、愛知県以外では児童養護施設にも里親支援専門相談員が配置されているところもあります。



Q 担当施設と管轄地域は？

A ①竜陽園（中央児童・障害者相談センター、海部児童・障害者相談センター、春日井児童相談センター）②赤ちゃん家さくらんぼ（知多児童・障害者相談センター、一宮児童相談センター）



Q 普段はどのような仕事をしているのですか？またベースの施設での仕事はどのようなものですか？

A ベースは乳児院にあるが、里親支援専門相談員としての仕事は、施設の仕事とは全く別物です。



Q 里親支援専門相談員としての具体的な仕事は？

A ①里親さん宅に訪問し、サポートを行う。このことは仕事の中でも非常に大切である！里子のサインを伝え、児童相談センターにも情報提供をする。
②施設ではないところで生活できるように環境提供を行う。しかし、養育里親数が少ない現状や特別養子縁組は里親の年齢制限があることなどが弊害となることがある。また里子候補の年齢が高かったり、発達の遅れがありなかなか成立しないのが現状…。
③必要に応じた会議……④里親支援会議（月1回以上）⑤里親支援連絡協議会（年1～2回）⑥里親委託推進委員会作業部会（年5回）⑦里親委託推進本委員会（年1回）⑧その他会議（適宜）に出席する。
④里親の啓発活動（パンフレットやティッシュを配布する）を行う。また体験発表会にも参加する。
⑤里親訪問記録を訪問毎に児童相談センターに提出する。



